

2023 年度有功賞候補者推薦について

日本分析化学会は、毎年、多年にわたって分析の実務に従事した方々や、分析に欠くべからざる機械、器具、試薬などの製造等の実務に従事した方々を表彰して「有功賞」を贈呈してまいりました。

本年も下記の有功賞規程により 2023 年度有功賞候補者を募集します。各関係機関におかれましては、適任者がおられましたら 1 名（維持会員の場合は 1 口に付き 1 名）を推薦くださいますようお願い申し上げます。

『有功賞規程』

第 1 条 本会に有功賞を設け、多年にわたり分析の実務に従事し、又は分析に欠くべからざる機械、器具並びに試薬などの製造等の実務に従事して功労のあった者に、これを贈呈する。

第 2 条 有功賞は、賞記並びに賞牌とし、年会において贈呈する。

第 3 条 会長は、毎年会誌「ぶんせき」1 号に有功賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。

第 4 条 有功賞候補者の推薦者は、維持会員代表者、公益会員代表者及び支部長とする。

(1) 維持会員代表者及び公益会員代表者は、その機関に所属する者を推薦することができる。

(2) 支部長は、維持会員及び公益会員に所属しない会員歴 5 年以上の正会員を推薦することができる。

第 5 条 前条によって推薦される者は、受賞する年の 1 月 1 日現在において満 50 歳以上であり、かつ休職期間を除いて満 25 年以上第 1 条の実務に従事している者とする。

第 6 条 候補者の推薦に際しては、次の (1)～(3) に規定する書類正、副各 1 通を 4 月 30 日までに本会に提出するものとする。

(1) 推薦書 (2) 推薦理由書 (3) 被推薦者履歴書（いずれも本会所定の用紙に記入すること）

第 7 条 有功賞候補者の選考は、有功賞審査委員会において行う。

審査委員は、理事会が本会会員中より 11 名を選考し、会長がこれを委嘱する。

委員長は、委員の互選による。

(以下省略)

☆ ☆

1) 2023 年度有功賞授賞式は、9 月 14 日（木）第 72 年会（熊本）において行う予定です。

2) 被推薦者の学歴制限はありませんが、被推薦者は本年 1 月 1 日現在において第 1 条の実務に従事されていることが必要ですので、ご注意ください（上記第 5 条）。

3) 有功賞候補者推薦書の維持会員代表者氏名は、本会に登録されている代表者氏名を記入してください（代表者氏名が異なる場合は返却します）。

4) 推薦理由書の所属部課係名、実務内容並びに期間は、できるだけ詳細に記入してください。

5) 推薦書類（推薦書、被推薦者履歴書、推薦理由書：本会所定の用紙）は、正 1 通、副 1 通（コピーでも可）を下記期限までに提出してください。

6) 推薦期限：4 月 30 日（郵送の場合は、当日の消印のあるものまで受理します）

7) 推薦書類提出先：〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号

公益社団法人日本分析化学会有功賞係（メールでの送信は shomu@jsac.or.jp）

8) 所定の書類を入用の場合は、<https://www.jsac.jp/jsac/rule/commendation/> からダウンロードしてください。

第 380 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー (LC) 研究懇談会

後援 (公社)日本薬学会, (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日本分析化学会

生命科学, 医薬, 食品, 農業, 化成品など幅広い分野では, 異常の検出や開発品の高機能化において極めて微量な成分を高い精度まで定量することへの要求は年々増えています。本例会では, 微量成分分析の基礎的な知見から実相までご講演いただき, 聴講される方々の研究・開発の一助となることを願います。

期日 2023年2月22日(水) 13:00~17:00

会場 Zoom オンライン会場

講演主題 微量成分分析における定量のコツ

講演

講演主題概説 (オーガナイザー) (13:00~13:10)

(東洋合成工業(株) 加藤幸一郎

(LC 分析士初段, LC/MS 分析士初段)

1. 微量成分分析に適したサンプル前処理法 (13:10~13:50)

(日本ウォーターズ(株) 島崎裕紀

(LC 分析士三段, LC/MS 二段)

2. UV 検出の高感度化とリニアリティレンジの拡大 (13:50~14:25)

(アジレント・テクノロジー(株) 熊谷浩樹

(LC 分析士四段, LC/MS 分析士二段)

3. HPLC の感度性能に関する最適条件の検討 (14:25~14:55)

(株日立ハイテクサイエンス) 清水克敏

(LC 分析士二段, LC/MS 分析士初段)

休憩 (14:55~15:15)

4. 微量成分分析を目的とした, システムスケールダウンの基礎 (15:15~15:50)

(日本分光(株) 寺田明孝

(LC 分析士三段, LC/MS 分析士二段, IC 分析士初段)

5. LC/MS/MS における C5 アシルカルニチンの異性体判別 (15:50~16:25)

(株島津製作所) 渡邊 淳 (LC 分析士初段)

6. 総括「微量成分分析における定量のコツ」(16:25~17:00)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC 分析士五段, LC/MS 分析士五段)

参加費 LC 研究懇談会・個人会員:1,000円, 後援学会・会員:3,000円, その他:4,000円, 学生:1,000円. 参加申込締切日後の受付はできませんので, ご了承ください。

情報交換会 終了後, 講師を囲んで情報交換会を開催します(会費1,000円). 参加申込締切後のご参加はできませんので, ご了承ください。

申込締切日 2月15日(水) (入金締切時刻:15時まで)

申込方法

- 参加希望者は, 下記申込先にアクセスし, 氏名, 勤務先(電話番号), LC 会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記の上, お申込みください。
- お申込みが完了した場合には, 登録されたアドレス宛に「第 380 回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は, 世話人までお問い合わせください。
- 申込み受付のメールを受領後, 必ず期限内に参加費の納入を行ってください。期限内に参加費納入が確認できない場合, 参加申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので, 十分ご注意ください。なお, 一旦納入された参加費は, 返金いたしません。
- 参加費の納入が確認できた方には, 2023年2月16日以

降には①例会サイト入場 URL と②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また, 情報交換会参加費納入者には, ③情報交換会サイト入場 URL をお知らせいたします。なお, 請求書と領収書の発行はいたしておりません。領収書は, 振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

液体クロマトグラフィー研究懇談会(例会)参加費送金時のご注意 例会参加費, 情報交換会参加費を送金される場合, 下記を禁止しておりますので, ご理解のほどよろしくお願いたします。

- 複数例会の参加費の同時振込
(→例会ごとに振り込んでください)
- 複数参加者の参加費の同時振込
(→参加者ごとに振り込んでください)
- 年会費や他の費用との合算振込
(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/LGxuBiUZJyp7RD6MA>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341, 口座名義:シャ)ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合せ先 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会〔世話人:東洋合成工業(株) 加藤幸一郎 [E-mail:k_katou@toyogosei.co.jp]

第 90 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会 第 122 回計測自動制御学会力学量計測部会 第 40 回合同シンポジウム

主催 (公社)日本分析化学会有機微量分析研究懇談会

共催 (公社)計測自動制御学会力学量計測部会

協賛 (公社)日本分析化学会, (公社)日本化学会, (公社)日本薬学会

期日 2023年6月22日(木)・23日(金)

会場 オンラインにて開催

内容 特別講演(予定)・一般講演(口頭発表)

発表申込締切 2023年2月10日(金) 必着

発表申込方法 シンポジウムウェブサイトのフォームからお申し込みください。＊ウェブサイトから申込ができない方は, 以下の内容を封書または E-mail (件名:合同シンポジウム講演申込)にて申込先宛にお送りください。①申込区分(一般 or 若手(30歳以下)), ②申込者氏名, ③所属学会等(主催・共催・協賛学会のいずれか), ④会員番号(③の所属学会の会員番号), ⑤郵便番号・連絡先住所(所在地), ⑥電話番号, ⑦メールアドレス, ⑧所属機関名(和文), ⑨所属機関名(英文), ⑩講演題目(和文), ⑪講演題目(英文), ⑫発表者氏名(和文. 講演者の前に○印), ⑬発表者氏名(英文), ⑭講演の概要(和文100字程度)

講演要旨原稿締切 2023年4月18日(火) 必着

参加申込方法 シンポジウムウェブサイトのフォームからお申し込みください。

事前参加登録締切 2023年5月19日(金) 必着

参加登録費 ①主催・共催及び協賛学会会員:3,000円(5月19日(金)まで), 3,500円(5月20日(土)以降), ②非会員:5,000円, ③学生:2,000円

申込・問合せ 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学共用機器センター 榎 飛雄真

[電話:043-290-3810, E-mail:orgmicro-sympo@jsac.jp]

ウェブサイト: <https://www.jsac.or.jp/~orgmicro/sympo2023>

詳細は, 日本分析化学会有機微量分析研究懇談会の HP (<https://www.jsac.or.jp/~orgmicro/>)にも掲載予定です。

——以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

**nano tech 2023 国際ナノテクノロジー
総合展・技術会議**
nano tech 2023 International Nanotechnology
Exhibition & Conference

主催 nano tech 実行委員会
期日 2023年2月1日(水)~3日(金)
会場 東京ビッグサイト
ホームページ <http://www.nanotechexpo.jp/>
連絡先 〒105-8335 東京都港区芝3-23-1 セレスティン芝
三井ビルディング (株)JTB コミュニケーションデザイン
内) nano tech 実行委員会事務局 [電話: 03-5657-0623,
FAX: 03-5657-0645, E-mail: nanotech@jtbcom.co.jp]

プラズマ分光分析研究会第118回講演会
—プラズマ分光・質量分析法を用いた
バイオイメージングの新展開—

主催 プラズマ分光分析研究会
期日 2023年3月10日(木)
会場 東京大学本郷キャンパス化学本館講堂および Zoom による
オンライン
ホームページ <https://plasma-dg.jp/>
連絡先 プラズマ分光分析研究会事務局 梅村知也 [電話・
FAX: 042-816-3001, E-mail: office@plasma-dg.jp]

「分析化学」 年間特集 “流” の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し2023年
は「流」をテーマとすることと致しました。

本特集では「流」をキーワードとして分析化学における基
礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を
社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わ
る論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくこと
が可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化
学」第72巻(2023年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国
内外、産学官を問わず、「流」に関わる分析化学の研究・開発
に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりま
すので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析
化学」誌の12号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象:「流」に関連した分析化学的な基礎・応用研
究に関する論文。例を以下に示します。1) 液体や気体など
の流れを利用した分析装置や分析手法の開発・応用、2) 連
続的に流れている河川や大気などの分析に関する研究、
3) 製造ラインなどの流れの中で利用する分析法の開発・応
用、4) 電子の流れを計測する電気分析化学的研究、5) 原
子・分子の流れを扱うシミュレーションを活用した分析化学
的研究。

特集論文原稿締切: 2023年4月28日(金) (第3期)

初めて書く論文は母語の日本語で!
“第22回若手研究者の初論文特集”
募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2023年(第72巻)に第22回
「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博
士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成
果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本
特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるよ
うにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て
掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿くだ
さい。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業
の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器
が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度
化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性
を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が
持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっ
ても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・
機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な
分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や
前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。
また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定
環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要
です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると
共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要がある
と考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事とし
て「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、
機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知す
ることが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考
えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載すること
といたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用にお
ける注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記
事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶ
んせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野にお
ける研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展
に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の
開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待
ちしております。

記

1. 記事の題目: 「技術紹介」
2. 対象: 以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解
説記事
1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、3) 分析
機器および分析手法の応用例、4) 分析に必要な試薬や
水および雰囲気などに関する情報・解説、5) 前処理や試料
の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、6) その他、分
析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性: 本記事の内容に関しては、新規性は一切問いませ
ん。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技
術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高い
テーマや関連技術については、データや知見の追加などに

- より繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会
[E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合：30,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）

会員外の場合：40,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

*上記に消費税がかかります。

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。どうか、本会事務局宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会

会員にとっても有意義であることを条件とする。

13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

『ぶんせき』再録集 vol. 1 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021年5月10日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。この巻には、2011年から2020年まで、10年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり256ページ、2,750円（税込み）のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する分析化学の豆知識』を堪能できます。本書は下記10章からなり、それぞれに12から14の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新のweb文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性
7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプルング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非会員の方に分析化学会のアピールをしたいときに、ぜひご活用ください。本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍ですので、書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきます。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。